



完成



⑤サンドペーパーをかけて磨く



④樹脂を塗りサーフボードを固める



③手作業で削りながら、カーブの形状を確認



②電動カンナで大まかな形に削る



①サーフボードの素材に輪郭線を書く

How to make a surfboard
サーフボードづくり

自分に合うサーフボードを ほぼ独学で試行錯誤

サーフボードについては、最初は既製品を購入し、やがて自分に合ったものをオーダーメイドするのが一般的だといえます。高梨さんは、何がきっかけで自らサーフボードをつくるようになったのでしょうか？

「オーダーしても思い通りのものができないので、自分でつくってみようと思ったんです。最初は知り合いにつくり方を教わりましたが、ほとんど独学です。つくっては海で乗ってみて、ちょっと薄かったから次は厚くしよう、幅が広かったからもう少し細くしよう、毎週でも新しい1枚をつくりたくなってしまつて。しつくりくるサーフボードができたで一瞬喜んでも、次の日になるとやっぱり違うなとか、いつまでたっても満足のいくものはいくつもない。何年やっても、とても難しいというのが実感です。サーフボードによって波に乗った感触はまるで違います。ただし、どんなに良いものができてサーフィンがうまくなるとは限りません。筆が良くてうまくまい字を書けないのと一緒にです」

最初は

自分のためだけに
つくっていましたが、友人

から頼まれたものを手掛けるようになり、やがて仕事として注文を受けるようになったそうです。

削る・固める・磨く 正解はない奥深い世界

サーフボードは一体どのようにしてつくられるのか、高梨さんの工房で製作工程を見せてもらいました。主に、削る・固める・磨くという3つの工程があるそうです。

①削る まず、発泡スチロールに似た素材に、自作したオリジナルの型を当ててペンで輪郭線を書きます。その線に沿って切り出したら、プレーナー（電動カンナ）で大まかな形状を整えます。そこから先は繊細な手作業です。「寸法を測ったりカーブの流れを

目で確認したりしながら、微妙な調整を加えていきます。これぞ理想的な形」という正解はありません。この削る工程がサーフボードづくりの肝となります」と話す高梨さん。次の工程へ進んだら、もう形を修正することはできません。

②固める 形が決まったら布を巻き、その上から樹脂を塗ります。すると布に樹脂が染み込んで固まります。サーフボードに色をつける場合は、樹脂に塗料を混ぜて塗ります。「1時間後には固まり始め、1日ではほぼ固まりますが、硬化剤の量や気温によってだいぶ違います。暑すぎると早く固まるし、寒すぎるとなかなか固まりません。そのため、年間を通して工房の室

奥深さが伝わってきました。

サーフィンを楽しみ、海を守る

神栖市はサーフィンを気軽に体験できる環境にあります。今年7月に実施された、小学生から大学生までを対象にした「夏休みサーフィン体験イベント」（主催：日本サーフィン連盟茨城波崎支部 波崎南風サーフィンクラブ、後援：神栖市、市観光協会）では、未経験者でも気軽に参加できるよう、体験用のサーフボードが用意されていました。また、『LAP BEAT』ではサーフィンスクールを実施しており、最近では40代、50代の受講者も増えているそうです。

神栖市では、美しい海を守るための活動も熱心におこなわれています。毎年海水浴シーズンの前に市民の皆



昨年開催された「夏休みサーフィン体験イベント」。楽しそうに体験する子どもたち

神栖ディスカバリーを
カミスマカ
でも楽しめる

オリジナル
コンテンツ
付き

「神栖ディスカバリー」を、神栖市魅力情報発信ポータルサイト「カミスマカ」でもご覧いただけます。紙面で紹介しきれなかった情報やコラムなど、オリジナルコンテンツも掲載しています。ぜひご覧ください。

